

葉山だからできる豊かな学びにむかって

『葉山町教育総合プラン』解説(2)

葉山小学校ビオトープ完成

葉山らしい学習・教育環境を充実するための指針となる「葉山町教育総合プラン」の基本理念Ⅲ「自然のあらゆることに思いを馳せ、感謝の念を持って行動できる人間を目指して」の具現化の一つとして、今年七月、葉山小学校にビオトープが完成しました。身近な視点から環境を考える力をつけるため、環境教育の視点から、生活科や総合的な学習の時間を中心として各学年に合わせ、学習に生かされています。

休み時間には、どんな生き物が生息しているのか自主的に観察に来る児童も多くいるとのこと。

また今年の六月には、今まであったビオトープからホタルやえさとなるカワニナを移し終え、来年の夏ホタルが舞うのを楽しみにしているそうです。

今後は、このビオトープから子どもたちが自ら自然環境について考え、環境教育のみならず、葉山だからできる豊かな学びがすすめられればと願っています。



中学校教科書が変わります

～平成十八年度使用教科書の採択について～

公立小・中学校の教科書は無償給付されますが、四年ごとに行われる採択（使用教科書を決定すること）の権限は学校を設置する市町村や都道府県教育委員会にあります。

葉山町では、これまで逗子市・三浦市と共同で採択を行ってきましたが、昨年度の小学校教科書採択から葉山町単独での採択に切り替えました。

採択地区を小規模化する目的は、地域の特色や町立学校の教育課程に適した教科書をより選択しやすくなることにあります。葉山町教育委員会では小規模化の趣旨を十分に踏まえ、葉山町の中学生にふさわしい教科書を採択できるよう体制を整えて参りました。

葉山町教育委員会は単独での採択にあたり、教科用図書採択検討委員

別表 中学校(18～21年度使用)

国語	株式会社三省堂
書写	株式会社三省堂
社会(地理)	株式会社帝国書院
社会(歴史)	株式会社日本書籍新社
社会(公民)	株式会社日本書籍新社
地図	株式会社帝国書院
数学	大日本図書株式会社
理科(第1)	大日本図書株式会社
理科(第2)	大日本図書株式会社
音楽(一般)	株式会社教育芸術社
音楽(器楽)	株式会社教育芸術社
美術	日本文教出版株式会社
保健体育	東京書籍株式会社
技術	東京書籍株式会社
家庭	東京書籍株式会社
英語	株式会社三省堂

小学校(17～20年度使用)

国語	光村図書出版株式会社
書写	光村図書出版株式会社
社会	教育出版株式会社
地図	株式会社帝国書院
算数	学校図書株式会社
理科	大日本図書株式会社
生活	教育出版株式会社
音楽	株式会社教育芸術社
図工	東京書籍株式会社
家庭	東京書籍株式会社
保健	東京書籍株式会社

会を五月に設置し検討を重ねて参りました。また、幅広い見識と時間を要する教科用図書の調査研究については引き続き二市一町合同で行い、採択のための資料を作成しました。さらに、葉山町教育研究会(中学校)による独自調査を平行して実施するとともに、教育研究所において教科書を展示して町民の方々のご意見を広く伺いました。

これらすべての調査・研究をもとにして教科用図書採択検討委員会が協議し、教育委員会に答申しました。教育委員会ではこの答申を受けて八月十五日に臨時教育委員会を開催し、各種目ごとに慎重審議の上、別表のとおり採択を決定しました。(小学校については、現行の教科書が継続されます。)

葉山町青少年創意くふう展

H17.9/10(土)～11(日)

～暮らしの中で他の人にも役立つものを考えよう～



町長賞

「つまむテープカッター」

伏見 咲月(葉山中3年)

家でお菓子の袋を開けて、もう一度閉めておくときセロテープを使い、はがすときにとりづらいので、かんたんに取れるようにするために作りました。



議長賞

「くつ下スッポリ君」

久保田健人(葉山中2年)

お祖母ちゃんが、くつ下を履きづらそうにしているのを見て、何とかしてあげたくて作ろうと思いました。材料を何にしようかずっと考えていました。



教育長賞

「楽periっ」

殿岡 芽依(葉山中2年)

家の人がゼリーのふた等をはがすのに苦労していたので作りました。思っていたより良くはさめたのでうれしかったです。

優良賞



「シャボン玉マシン」

村田りりこ(葉山小4年)



「おもしろ天気よほうき」

柴田光太郎(長柄小4年)



「スピーディーまな板」

森川 愛美(葉山中1年)



「本開かせ機」

山本 海住(葉山中3年)



「リメイク! かさからかばんへ」

中澤 涼子(南郷中1年)



「ケーキはおまかせまわして斬り」

根岸 彩香(南郷中3年)

9月10日(土)・11日(日)の二日間、葉山町立図書館二階ホールで「平成17年度葉山町青少年創意くふう展」が開催されました。昨年度より200点も多い622点の作品が出品され、2日間の延べ入場者数は605人(児童生徒は310人)でした。

特許事務所の弁理士に審査をお願いし、各賞を決めていただきました。

「優れた作品というのは、自分だけが便利に使えるのではなく、いろいろな方が便利に使えるものである」とのお話がありました。来年に向け今からアイデアを探してみてもいいかもしれません。